

年間授業計画 新様式例

高等学校 令和8年度（2学年用） 教科 公民 科目 公共

教科： 公民 科目： 公共 単位数： 2 単位
 対象学年組： 第 2 学年 A 組～ H 組
 教科担当者： (A組： 郷家) (B組： 郷家) (C組： 郷家) (D組： 郷家) (E組： 郷家) (F組： 松川)
 (G組： 郷家) (H組： 郷家) (組：) (組：) (組：) (組：)

使用教科書： (『高校生の公共』(帝国書院))

教科 公民 の目標： 社会的な見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

【知識及び技能】 選択・判断の手掛かりとなる概念や理論及び倫理、政治、経済などに関わる現代の諸課題について理解するとともに、諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】 現代の諸課題について、事実を基に概念的・多角的に考察したり、解決に向けて公正に判断し

【学びに向かう力、人間性等】 よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、人間としての在り方生き方についての自覚や、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。

科目 公共	の目標： 人間と社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】
現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけるようにする。	現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し、判断する力を養う。
	【学びに向かう力、人間性等】
	現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚する人間性を培う。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	主	配当 時数
第1部 公共の扉 第1章 公共的な空間をつくる私たち 【主体的に学習に取り組む態度】 自らを成長させながら、社会の中で生きていくための人生観、世界観ないし価値観の基礎を培うことの重要性を理解させる。	社会に生きる私たち：公共的な空間とは。青年期の心理には、どのような特徴があるのだろうか。「おとな」になるとは 個人の尊厳と自主・自立 多様性と共通性 キャリア形成と自己実現 伝統や文化とのかかわり	【知識・技能】 自らの体験などを振り返り、自らを成長させる人間としてのあり方生き方について理解できる。 【思考・判断・表現】 青年期の意味を考えさせることを通して、他者とともに生きる自らの生き方について多面的・多角的に考察し、自分の考えを表現している。	○	○	○	4
第2章 公共的な空間における人間としてのあり方生き方 【主体的に学習に取り組む態度】 主張の根底にある考え方の理解をもとに、課題を主体的に追究、解決させる。	人間と社会のあり方についての見方・考え方 実社会の事例から考える～環境保護・生命倫理	【知識・技能】 古今東西の先人の取り組み、知恵などを踏まえ、社会に参画する際の選択・判断をするための手掛かりとなる概念や理論を理解できる。 【思考・判断・表現】 選択・判断の手掛かりとなる考え方を活用し、環境保護や生命倫理などの実社会の問題を考察し、表現できる。	○	○	○	4
第3章 公共的な空間における基本的原理 【主体的に学習に取り組む態度】 人間の尊厳が守られるために必要なことについてじぶんにできることは何かを考え、取り組ませる。	公共的な空間を形成するための考え方 よりよく生きる行為者として活動するために 人間の尊厳と平等 個人の尊重 民主政治の基本的原理 法の支配	【知識・技能】 古今東西の先人の取り組み、知恵などを踏まえ、公共的な空間における基本的原理を理解できる。 【思考・判断・表現】 なぜ人間の尊厳が守られることが必要かを考察し、表現できる。	○	○	○	6
中間考査			○	○		1
1 学期 【主体的に学習に取り組む態度】 立憲主義の考え方に基づいて、日本国憲法と現代政治のあり方との関連について主体的に追究させる。	自由・権利と責任・義務 世界のおもな政治体制 日本国憲法に生きる基本原理	【知識・技能】 国のあらゆる法の基盤となる最高法規であるという立憲主義の考え方とその現代的な意味を理解できる。 【思考・判断・表現】 民主主義の問題点について、多数者の専制を考察する活動を通して、多面的・多角的に考察し、表現できる。	○	○	○	6
第2部 よりよい社会の形成に参画する私たち 第1章 私たちと法 【主体的に学習に取り組む態度】 すべての人の基本的人権を守り、確保させようとする態度を身につけさせる。	主題1 法や規範の意義と役割 私たちの生活と法 法と基本的人権 自由・平等と法・規範	【知識・技能】 法やルールを定める時には、どのようなことに配慮する必要があるかを理解できる。 【思考・判断・表現】 身のまわりの偏見や差別・不平等、自由権が保障されていない問題について理解し、その解決策を考えることができる。	○	○	○	6
【主体的に学習に取り組む態度】 18歳で成年になる意義をふまえて、契約の意味や責任を負うことについて学び、自分にとって必要な契約かを慎重に考えさせる。	法をよりよくかえていくために 主題2 契約と消費者の権利と責任 さまざまな契約と法 消費者の権利と責任	【知識・技能】 契約自由の原則の内容や、契約によって様々な責任が生じることを理解している。 【思考・判断・表現】 契約自由の原則に例外があるのはなぜか、考察できる。	○	○	○	6
【主体的に学習に取り組む態度】 最高裁が「憲法の番人」と呼ばれていることや、国民の権利を守るために三権分立のしくみが採用されていることなどの理解を通して、法の支配を実現するために、公共的な空間をつくる自立的な主体としての自覚をもたせる。	主題3 司法参加の意義 裁判所と人権保障	【知識・技能】 公正な裁判を確保するために、司法権および裁判官の独立が保障されていることを理解している。 【思考・判断・表現】 公正かつ慎重な裁判をおこなうために、日本の裁判では三審制が採用されていることを考察できる。	○	○	○	5
期末考査			○	○		1

